

令和 7 年度 第 3 回佐久市総合計画審議会 議事録

日時：令和 7 年 11 月 21 日（金）

午前 10 時～11 時 30 分

場所：佐久市役所 8 階大会議室

【出席者】坂江会長、小嶋副会長、滝沢委員、柳澤委員、池田委員、太田委員
渡辺委員、井出委員、阿部委員、二村委員、伊藤(康)委員、木内委員
飯沼委員、高橋(渉)委員、堤委員、麻生委員、坂戸委員、中嶋委員
小林委員、伊藤(明)委員、三石委員、中澤委員、小松委員、大井委員
東城委員
以上 25 名

【事務局】木内企画部長、市村企画課長、小林企画調整係長、井出(吉)主任、鷺見主任
大塚主任、中澤主任、久保田主事

◎会議事項

1 開会

2 あいさつ

- ・欠席委員報告（北山委員、伊坂委員、高橋（博）委員、鈴木委員、武重委員、
松崎委員、須江委員、山澤委員、川崎委員）

3 報告

令和 7 年度改訂版佐久市人口ビジョンについて

会長	令和 7 年度改訂版佐久市人口ビジョンについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	令和 7 年度改訂版佐久市人口ビジョンについて 《資料 1・2 に基づき説明》
会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	令和 18 年のところで、黒い線の 92,244 人は社会的予測に基づいたものだと思うが、それをオレンジ色の 95,902 人に届けたいという展望でよいのか。
事務局	おっしゃるとおり。第三次総合計画においては、96,000 人を目標とし、10 年後にはこの数字が維持できているように各施策を検討していく。

委員	プラス 3,700 人という数字が出てきているが、何か根拠や考え方はあるか。
事務局	社人研については、現在佐久市で行っている事業を単純に継続していった場合の推移となっており、上のシミュレーションについては、佐久市として積極的にいろいろな事業をさらに行なっていくことにより、人口減少に歯止めをきかせた場合の結果となっている。 社人研に対して、各施策を力強く進めていくことで、その予想よりも 3,700 人は多く見られるような状況になってくることを示している図となっている。
委員	将来展望人口は、こういう風になってほしいという願いで設定したのか、具体的な事柄があり人口がこう推移するといったことで設定したのか、どちらか。
事務局	右上に参考で将来展望人口の設定条件を示している。自然増・社会増において、佐久市として目標を立て、それに向けて事業を検討していこうと設定した。合計特殊出生率については、現在佐久市は低い状況だが、国が示す 2.07 を目指して、力強く自然増に関わる事業を推進していくこと、社会増については、0 歳から 44 歳を中心として、年間 450 人の社会増を目指すための事業をこれから考えていくために、目標として定めた数字なので、そこには何の事業も落とし込まれていない。
委員	人口を考えるにあたりデータは良いが、動きの中でどういうことが佐久市で起こっていたのか、あるいは施策としてどういったものを行なってきたのか、それを分析しながら考えていかないと将来に向かったのものが見えない。
事務局	各事業の振り返りについては、委員の皆様とこれまでも部会を通して進行管理等、審議させていただいている。その内容については、この目標となる人口ビジョンをベースとして、第三次総合計画の施策を検討していく中に落とし込んでいければと考えている。
委員	総合計画は行政の指針となるので、過去を検討して、そして向かっていくことによって、やるべきことがはっきりしてくると思う。

4 議事

(1) 第三次佐久市総合計画策定に関するアンケート調査結果について

会長	議題の(1)「第三次佐久市総合計画策定に関するアンケート調査結果について」事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画策定に関するアンケート調査結果について 《資料3に基づき説明》
会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	現代の地域を支えている人たち、30代、40代、50代の人たちが どういう考えを持っているのかを知りたい。
事務局	市民アンケートの本編の結果の中で、各年代の結果も掲載している ので、ご覧いただきたい。市としてもその結果を受け、今後の計 画策定の参考としていきたい。
会長	30代から50代の層の意見がどうかということかと思ったが、そ こらへんを知りたいということか。
委員	高校生や中学生の意見が書かれているが、社会を支えている人た ちの意見を集約してみたものがあればということ。
事務局	本編の報告書に、30代から50代の働き盛りの年代ごとに、重要 度が高い施策が何なのか、満足度が低い施策は何なのかといったと ころも掲載している。市としても、分析し検討していきたい。
委員	概要版で示されているところに、今回のことを掲載するべきでは ないかということ。概要版を様々なところの説明で使うとするなら 中心となっている人のことを加えてほしいという意味だと思う。
事務局	今後、説明の機会が出てきた場合には、今回の御意見を踏まえ、 追加等させていただく。
委員	9ページにある「市内周辺地域において、住みやすさが低くなる 傾向がある」という分析だと思う。社会を支えている人たちが佐 久市に対して、どういう考え方を持っているのか。中学生・高校生

事務局	と親との間でもギャップがあるかもしれない。その人たちが地域をつくっているわけで、その人たちを増やすことが人口にも影響してくるので、その人たちの考え方が重要になってくる気がする。 その辺をしっかりと分析して、計画策定に反映していきたいと思うので、ご理解をお願いしたい。
委員	6 ページを見ていて、特に生活に密着した部分の満足度が低く、もう少し施策を頑張れよと言っているように感じた。例えば、子育ては若い方にとって大事な問題。交通の問題、住宅の問題など生活に密着した部分。 アンケート結果は分かったが、それは今までの施策のどの部分から生まれてきたのか、その考察が大事。アンケート結果からどこに問題があったのか、どこをどうするか分析はどこかにあるか。
事務局	今回のアンケート結果は報告という形になるが、今後、基本計画の中で具体的施策を検討していく際に、今までの振り返りとアンケート結果をリンクさせながら、今後実施していく施策を検討していければと考えている。
委員	ぜひ自分たちがやってきたことの反省と振り返りを大事にしながら、次のことを考えてもらいたい。
委員	14 ページのところ、地域に誇りや愛着を持てるまちを大切にしたいということがあり、すばらしいと思った。特に若い方たちがこういう風に言っていること、裏返せばこれは地域の強みだと思う。佐久地域には強みが沢山あるので、これからも発信していき、自分たちのまちはこんなにすばらしいということを若い方たちが自信をもって発信できる形のものができていくと良いと思っている。 また、15 ページのところ、高齢になっていくと生活の交通手段が弱くなってしまう。車の運転ができない、買い物に行かれないという人たちも出てくる中で、デマンドワゴンが沢山走っていて良いと思っている。そういった高齢者の満足度も気にしてほしい。

(2) 第三次佐久市総合計画の構成（案）について

会長	議題の（２）「第三次佐久市総合計画の構成（案）について」事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画の構成（案）について 《資料４に基づき説明》
会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	10年間の計画を、前期と後期の５年間に分けて推進していく中で、他の委員の皆さんの任期は分からないが、例えば、区長の任期は２年くらいしかなく、関りが薄くなってしまう。また、市の職員の皆さんもその間、専門的に関わっていける人がいるのかどうか。反省や評価をするにしても、そのために関わっている人がいないと内容が分からない状態となる。その辺の体制が十分な状況か考えていただきたい。 もう一点、一次、二次のものを引き継ぐことは大事なことであるが、解決できなかったものを継続して行うとか、10年前とは環境が違っているから切り捨てていくことも必要だと思う。その辺は、優先順位をつけて対応していただきたい。先ほどと重なってしまうが、重要度が高く、満足度が低いことは最大の課題かと思うので、そういうものを重点的に取り組んでいただければありがたい。
事務局	一点目の体制だが、なかなか難しい課題と感じている。委員の皆さんも入れ替わりがあったり、職員も異動で入れ替わったり、この部署に専門でいることは難しい状況。その中で、しっかりと引継ぎをしていきたい。 二点目だが、一次、二次から継続していくべきもの、切り捨てていくべきもの、しっかり優先順位をつけながら、施策を検討していきたい。
委員	人口ビジョンの達成だが、10年後という大きな目標、数値で言えば、96,000人。先ほどもあったが、具体的な施策が非常に大切で、それに対し、民間で言えばPDCA、行政で言えばKPIがどうなっているか反省をして、さらにアクションに落とし込むことが必要になってくる。今、施策の実施に官民連携という言葉が大きく取り上げられているが、前の構想については、ほとんど行政に頼り

	っぱなしで座っているだけという状況の反省の中で、これからの10年後については、自分たちの役割と責任をしっかりと示しながら、発言をして関わっていききたい。そこのところをしっかりと捉えていただき、具体的な様々な施策を検討していただきたい。生活に関わること、未来のことなど、地域間競争になっていて、自治体においても人口が増えているところ、全くそうでないところという大きな宿題を抱えた時期になってきていると思うので、タッグを組んでやっていけたらと思う。議事（3）に行く前に、その確認をしっかりと、私も任期がどうか分からないし、それぞれの事情があると思うが、しっかりと引き継いでいただいて、これからの将来に向けた佐久市を共に創っていききたいと思っている。
事務局	官民連携と言われて久しいわけだが、役所としての役割、そして民間の皆さんに担っていただきたいことをしっかりと整理しながら、委員からも役割と責任を持って民としても関わっていききたいという心強い御意見を頂戴して、本当にありがたい。おっしゃるとおり、都市間競争の核心は、人口をどれだけ維持していくかであると思っている。その辺を踏まえ、向こう10年の計画は、皆さんの意見も十分に取り入れながら策定していきたい。
委員	一次、二次の計画についても人口の計画があり、どのぐらい乖離したかのデータがあると思うが、それがどういう状況で、三次に結びついているか教えていただきたい。また、都市間競争で自然増、社会増の話があり、社会増を考えた場合に、佐久市内の分析だけでなく、比較優位という概念が必要となってくる。他地域に比べて、どの程度重要なところなのかといったことを比較する必要がある、それを高めていく。今は、前よりも良くなったという概念ではなく、他地域、特に近隣の地域に比べてどのぐらい優位に立っているかという検討が必要になったと感じている。また、自然増を増やしていくとしたら、特に子育て世代のニーズ、何を求めているのかを分析していくことが重要ではないかと感じている。
事務局	一点目について、第一次総合計画の状況は把握できていないが、第二次については、今から10年前に人口ビジョンを策定した時に97,000人を目標とした。令和7年10月時点においては、97,400人程度で、目標とした人数をなんとか維持しながら、それに向けて事業を進めてきた結果が出ている。こういったことから、今回96,000

委員	人と設定したが、これはかなり強気な目標値。ただこの目標に向けて、二次の結果と同様に三次においても力強く施策を取り組み、96,000 人を 10 年後も維持できるようにしていきたいと考えている。 二点目の他地域に比べてというところだが、社会増については、令和 6 年において県内で一番多かった状況とは把握しているが、その他の点についても、他地域と比較しながら施策を検討していきたいと思っている。 三点目、子育てニーズのところだが、先ほど働き盛りの意見が重要という御意見もあったが、子育て世代の 20 代、30 代、40 代といった方へも同じようにアンケートを取っているので、分析をしながら、どういったことを考えているのか分析をしていきたい。 先ほどのところ、データで比較優位に立っている指標があると思うので、そういう様々なデータを示しながら教えていただけると分かりやすいと思った。もう 1 つの点については、移住されてきている方が移住されてどのような点に満足しているのか、そういう調査も重点的にやっていただければと思った。
委員	今回、総合計画の進め方ということだが、ワークショップやパブコメ等に関して周りの方にも周知するが、移住してきた頃はみんなやる気があって出てみたり、コメントを出してみたりしてくれていたが、最近みんな疲れてきている感じがある。要は、ワークショップ疲れしている、パブコメ疲れしている。行政側のそういう感じもお見受けしている。ワークショップは比較的新しいやり方だと思うが、最近はどうせ出ても変わらないし、パブコメ出しても採用されないという雰囲気になってしまうとすごくまずいなと思っている。人口ビジョンに関しても、2 名からしか意見が出てきていない、そもそも聴くのもどうなのだろうというような数になっている感じなので、やり方を工夫している自治体もあると思うので参考にしながら、新しいやり方で次の総合計画の策定に向けて、あるいは次の新しい計画の策定に向けて、動いていただくのがよいと思った。 もう一点、見せ方がものすごく大事だと思っている。見せ方として、概要版をかつよく見せて、若い人が今回はなんか違うなと思いい中身を見て、こういうことをやろうとしているのか、じゃあ自分もこういうことができるかなと思ってもらえるようなビジュアルも含めて、ある程度予算もかけて、文章だけでなく、見せ方を工夫

事務局	した方が、先ほどの市民参加というところで、市民に興味を持ってもらえるところに繋がっていると思うので、その辺も検討いただきたい。 総合計画策定にあたり、9月と10月にワークショップを開催したが、参加者が少なかった状況だった。実際参加した方からも、今回の意見をしっかり反映してほしいという御意見も頂戴したところであり、しっかり受け止めなければいけない。また、見せ方については、読んでもらえる、見てもらえるように検討していきたい。
-----	--

(3) 第三次佐久市総合計画の基本理念・将来都市像・土地利用構想の検討について

会長	議題の(3)「第三次佐久市総合計画の基本理念・将来都市像・土地利用構想の検討について」事務局から説明をお願いする。
事務局	第三次佐久市総合計画の基本理念・将来都市像・土地利用構想の検討について《資料5に基づき説明》
会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	2ページ、将来どんなまちになってほしいかに、なぜ「給料が高い会社」がないのか。市の発展、人口が増えていくには、働く場所があることだと思う。市として、企業誘致等、努力してきたと思うが、そこが一番大事なところで、佐久市の皆さんに起業してくださいだけではうまくいかないと思う。ぜひ企業誘致、都会の会社を引っ張ってくる。以前に比べてインターネット環境が整っているので、製造業だけでなく、IT産業等、誘致できる下地はあると思う。働く場所について、企業の誘致、十分賃金が払える、そういうものがあれば、ここを出ていっても帰ってくると感じた。一番大切な暮らしが成り立たなければ、帰って来られないので、どんどん出ていってしまうことになると思う。
委員	稼ぐ力をどうするかということ、フレーズ例の中に経済・産業の振興というようなものが一言入ると良いと思う。
委員	将来都市像について、感想と提案を申し上げたい。現在が、「快適健康都市 佐久」で、私この快適健康都市という言葉、非常にいいなと思っている。こちらに4月から来ているが、まず非常に気候

委員	がいいなと思った。天気がいい、今日も非常に晴れやかで、湿度がいい。今日は寒すぎるかもしれないが、夏場は涼しい。その気候がいいということもあるし、自然も景観もすばらしい。そういったことがまずベースにあると思う。それに健康。これも医療機関が充実しているし、健康長寿のイメージ。住みやすく、健康が高まる地域だということが佐久市の強みだと思っていて、こういったキャッチフレーズが必要だろうと思っている。一方で、都市間競争、地域間競争、また移住者ということもあり、このキャッチフレーズを誰向けに発信するのかを考えながら、地元に住んでいる方は、自然とか安心とか温かいとか、そういうことでも非常に惹かれるかもしれないが、経済、稼ぐという話もあったが、この地域に住んでいない方、社会増を目指すのであれば、地域の外からみてこの地域に来たいと思えるようなキャッチフレーズを考えることも一つだと思った。工夫が必要かと思うが、外から来た方から見てのキャッチフレーズをいただきながら、ただ一方でこれまでお住まいの方の意見もうまく調和して、ぜひ佐久市の特徴を、日本全体の中でもかなり優位な都市だと思っているのも、そういったところを目指すような言葉があればいいなと思う。 香坂山遺跡が国史跡に指定され、先日式典があったが、その地域は、3万年前、4万年前にユーラシア大陸から現生人類のホモサピエンスが行きついた場所ではないかという非常に歴史的にみてもここには人が集まってきたと聞いた。現在も東京とかいろんなところから、県内からも佐久地域に住みたいと移住される方も多い。昔も世界から集まってきて、今もいろんなところから人が集まってきていて、未来に向けても人が集うような、少し歴史的な時間軸の概念とそれからグローバル的な世界から集まるといったことも語ってもよいのかなと、その資格が佐久市にはあるのではないかと考えている。ぜひ夢のあるものができればよいと思う。 将来都市像、土地利用構想はまだこれから決めていくとのことだが、ぜひここに入れていただきたいと思うのは、今移住の方たちのお世話をしていると、前はスキルを持っている方とか定年退職をしてリタイアした方とかいろんな方がいたのですが、最近は教育移住もそうだが、普通に移住をしてきて、普通にお勤めをする方もとても増えてきている。普通に家族連れで移住をしてきて、環境の良い佐久市に住みたいという方たちの受け入れということも考えて、空いている土地の利用も大切だが、今とても問題になっている中古
----	---

委員	住宅、中古住宅を解体した後の跡地、そういった建物が残っているが、そこにまだ土地して利用できるというところももう一度どういった使い方があるのかを確認していただく。また、他の市町村では、もう一度古い商店街を盛り上げていくみたいなのところが今出てきているが、どうして佐久市が盛り上がっていかないのかを逆に考えて、そういった視点でも何かしら人を集められる、人を呼んで来られるというところをもう少し考えていただけるとありがたい。 6 ページの基本理念（案）。時代の変化に挑戦し、多様な人材が活躍するまちづくり。キーワードでいくつかあるが、先ほどから企業誘致の話もあるが、働く場所の充実はここに入るのか。どこかに入れてもらいたい。働きやすい場所は、企業誘致だけでなく、例えば農業もそうで、大事な基幹産業だと思う。佐久平駅周辺、どんどんなくなっている。全体的にそういうものを見ながら、施策を立てていかないといけないと思う。 二つ目、新たな卓越性が分かりづらい。上を見ると暮らしやすさの面での卓越性。そうすると「新たな」ってなんだ？と思う。卓越性は、他と比べて卓越という意味。比較の中での言葉だからあまり嬉しくない。いずれにしても分かりにくい、せめて暮らしやすさの卓越性といえはなんとなく分かる。その中身が分かるような文章にしていadakないと訴えかけてこられないと思う。
----	---

5 その他

会長	全体を通して、委員の皆さんから何かあるか。
委員	(なし)
会長	事務局から何かあるか。
事務局	次回は2月の開催を予定しており、日程が決まったところで追って連絡する。
会長	以上で議事を終了する。

6 閉会